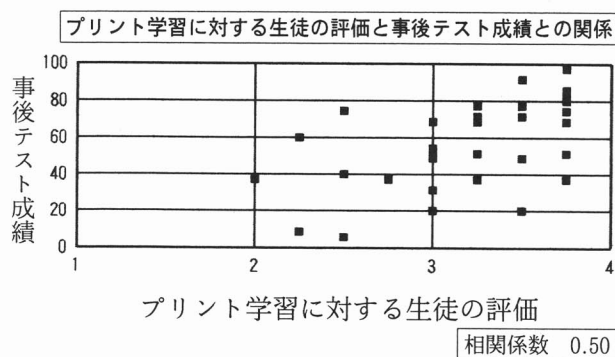


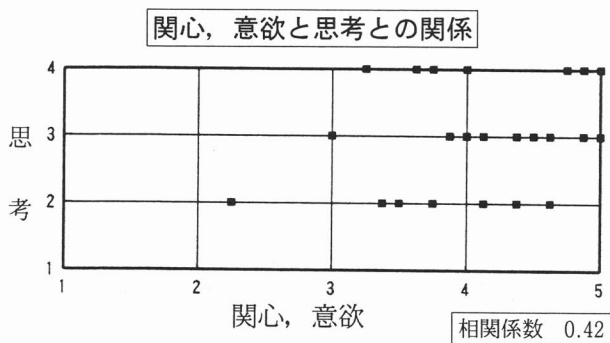
② プリント学習に対する生徒の評価と事後テスト成績との関係



①, ②とも、それぞれかなりの相関が見られた。プリント学習により思考の時間を確保し、自分のペースで学習を進めることで、生徒の学習に対する関心、意欲が持続し、それが事後テストの成績にも反映していることがわかった。

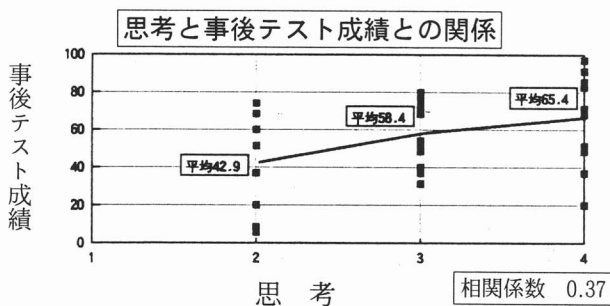
(4) 関心、意欲と思考の関係

このプリント学習で生徒がどのくらい考えたか、その思考の程度を、プリント学習の効果についての自己評価項目(2)の結果でとらえ、これを関心、意欲との関係でみたのが次のグラフである。



両者の間に相関がみられた。このことから、思考活動を活発にするためには、関心、意欲を持続させることが大切であることがわかった。

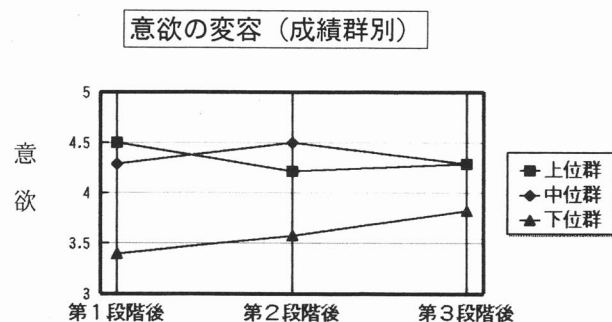
(5) 思考と事後テスト成績との関係



思考の程度（プリント学習の効果についての自己評価項目(2)）と事後テスト成績との間には相関がみられた。よく考えた生徒ほど、知識・理解の定着もよかったとみることができる。

(6) 成績群別にみた意欲の変容

各段階の学習を終わった時点で、意欲の傾向（調査2の項目5～8の平均）を調べ、その変容を成績群別にみたのが次のグラフである。成績群は、授業実践前の期末テスト成績を基に各群20%を抽出した。



上位群、中位群では意欲が持続し、下位群では段階を追って意欲が高まっていることがわかった。このことから、実践した方策(1)～(3)は成績上・中位群の生徒、成績下位群の生徒それぞれに効果的に働いたことがわかった。

6 まとめ

- (1) 生徒の学習状況や気持ちを的確に判断し、学習につまづいている生徒を支援してやることによって、生徒に安心感を与えることができた。また、生徒が安心して学習を進めることで、学習に対する関心、意欲を持続させることができた。
- (2) プリントを使って課題を明確にし、思考する時間を確保したことは、学習に対する関心・意欲を持続させ、思考を促す効果があった。また、それが知識・理解、技能の獲得にもつながった。
- (3) 情意面を活性化する方策(1)～(3)は、成績が上位・中位群の生徒にはもとより、下位群の生徒にも有効であった。